

名乗りの中日比較

平文智 （1991年6月8日発表）

中国と日本は一衣帯水の近さだが、風俗習慣は大きな違いがある。例えば黙っていても動作でわかる。よく頭をさげてお辞儀するのが日本の方、突っ立って手を差しのべて握手をかわすのが中国人だと思う。口を開いたら言うまでもなく言葉が全然違う。言葉というとどんな言語に属するものであれ、又どんな種類のものであれ、必ず二つの部分から成り立っている。第一に言葉は音としての一定の形態を持っている。第二に言葉には内容がある。つまり一定の意味を持っている。違う民族の特質はすべてその民族の使う言葉の中に集約されているから、言葉は民族なりといえる。

その裏付け、一つの例として普段よくきかれる言葉一名乗りについて中国と日本両民族はどう違うかを調べてみた。

〔調査方法〕

三つの場面を設定し（初対面、電話、人をたずねる）、よく交わされるやり取りを調べる。

（1）直接日本の方、中国人に聞く

（2）中国語と日本語のテキストを調べる

〔調査結果とまとめ〕

三つの場面を総合的にみると、日本の方は「…〇〇です」、話題づくりの要素を持ちながら先に名乗る。それに対して中国人は「您貴姓：お名前はなんとおっしゃいますか」というふうに名乗らず先に相手の姓名をたずねることがわかる。で、中国人はなぜ名乗りたがらないかということ、中国は昔から自分の姓名はたずねられなければならないという慣わしがあるからだ。

自分は取るに足らない者で、名乗るほどの者ではないという謙虚な気持ちが働いている。いきなり「私は〇〇です」と切り出すと「いばっている、尊大ぶった」というような感じを与える。

勿論、社会の国際化につれて、中国もすこしずつ変わってきて、「〇〇です」とか、「〇〇ホテルです」というふうに先に名乗る動きもみられている（大都市、一定の部門に）。

今私も日本式で先に名乗るようにしているが、なぜ先に名乗らなければならないの

か理由ははっきりわからない。日本の方に聞いてみた所、先に名乗るのは遜って、礼儀正しく、親切、しかも明瞭で時間の節約もできると答えてくれた。なるほどと思いながら、どうしても名乗りのあとにつく「よろしく」という添え言葉にひっかかる。名乗って自分を知ってもらうだけでなく、配慮して頂きたい、いいかえれば言語外、心理的にポイントは自分の名前でなく、「よろしく」という意味にあるのではないかと思われる。なぜなら、島国の中で生活する日本の方々は本質的に争いを好まず、何よりも「和」を重んじる。そして個人と社会の一体感を破らないために、常に世間の中の自分の立場を確認し、微妙な人間関係を維持していくという配慮を何よりも優先させる風習があるからだ。先に名乗ってよろしくおねがいすることも、こうした日本人独特の人間観の反映ではないかと思う。ついでに、名乗りのしかた、日本の女の子は自分のことを私（我）と言わず、名前でいうことだ。例えばマユミもほしい…自分をなんと称するか、中国と日本は大分違うようで、民族性も出ていると思う。今後の課題としてもっと深く研究していくつもりだ。

（中国政府派遣研究員）